

若手アカデミーの動向

学問の融合とは何か

—若手アカデミー・シンポジウム『融合を問う：
学問の消滅と生成の系譜学から』に向けて

福永真弓



現在、国内外において、融合という言葉のもと、学問のダイナミックな再編が学問分野・領域、制度、教育の各方面で大きく進んでいる。確かに、私たちの抱える社会的課題は多くの場合、どれも既存の専門領域を横断するもので複雑である。

たとえば、人間活動による環境改変や気候変動による環境変化は、変化への適応とリスクへの対処という社会的課題をもたらした。それに応える社会設計をしようとするとき、もともとの社会の状況をどのようなものとして捉え、何をのぞましい人びとの生き方、それを支える社会の在りようとし、そのためにどのくらいの時間軸を設定して対策を練るか、という問いと切り離せない。

しかしこれらを追求するのは容易なことではない。社会それぞれが抱える高齢化や都市への若年人口集中の問題、グローバルな資本制システムのもとでの社会の流動化と複雑化する消費流通生産構造などが絡み合った現状からシナリオを描く必要がある。しかも、ICT技術や生命科学など、人間そのものと人間社会の基盤を大きく変えうる科学技術の急速な展開により、人が生きる時空間も、そこに生きる人間存在のありようもまた大きく変容し続けている。偶然的であるにせよ、因果的であるにせよ、何らかの相関性や連続性をもって複雑に絡み合った現状の中で、課題に向き合うには、おのずから、特定の専門性を超えた新たな領域を生み出すことが必要となる。そのような試みの研究の形態と方法論の一端をあらわす言葉として、昨今では学問の融合、文理融合という言葉が用いられてきた。

他方、融合のもとでの学問のダイナミックな再編がどのように行われ、それが何をもちたらそうしているのかについては、不信や懸念もまた渦巻いているのも現状である。学問の融合は、学際的や超領域的という言葉のもとで目指されてきたことと何が異なるのか。そう考えたとき、他の言葉と比べて少し不穏な響きを感じるのは、融合には、既存の専門領域がもともとの輪郭を失くして、新たに設けられた新分野に文字通り融けこむ、結果として既存の専門領域はなくなる、という言葉のニュアンスがあるからだろう。

どのような合理性や権力の中で、どのような営みとして「融合」が語られるのか。それはどのような社会的ニーズや承認のもとにあるのか。これらの問いに向き合うことなく融合を簡単に進めてしまえば、ある合理性や権力性のもとで必要とされないものは削られてしまい、少なくとも制度上はその立ち位置は失われてしまうのではないか。それは、学問的営みの幅と将来の可能性まで削られてしまうことを意味しないか。そのような不安もあり、懸念もある。基礎研究をはじめとして、現代的な課題へ直接応

答するわけではない学問の領域も多い。学問の為すべきことの 하나가、目先ばかりを捉えて足元不如意になることを防ぐことにあるのだとすれば、もっと長い時間軸や複数の政治・社会空間スケール、あるいは別の合理性のもとで、妥当性や正当性、将来性を見出していくことも一つの重要な学問営為であろう。そうしなければ、具体的に目の前の社会的課題に実践的に応答しながら、どのような未来の人間社会を構想し、そのための布石を打つべきかをマクロに考えることはできない。

若手アカデミー・若手による学問の未来検討分科会では、以上を念頭に、学問が融合するとはどのようなことなのか、もう少し歴史的、特に思想史的に学問の営為をおいかけることで考えてみる必要があるのではないか、と議論してきた。そうしてはじめて、学融合や統合という名のもとに新しく追求されようとする学問は、何に答え、どのようなものとして成り立とうとしているのだろうか、あるいは成り立つべきなのだろうか、も捉えられるだろうというのである。

そこで、2016年7月10日に日本学術会議講堂でシンポジウム『融合を問う：学問の消滅と生成の系譜学から』を開催し、広く参加者と共に議論をおこなう。学問領域がどのようにして専門領域として生まれ、社会や時代的要請の変化と共にそれがどのような変容を遂げ、時に大学などの研究教育制度から姿を消したり統廃合されたりしてきたのか、ということに着目しながら、改めて融合とは何かを議論してみたい。歴史的・思想史的に振り返ることを重視することから、講演タイトルおよび講演者は図のプログラムにあるとおりである。各講演タイトルが示すとおり、学問の再編のダイナミズムとは何かを根本的に問い、融合を考える礎とするための魅力的な講演がなされる予定である。また、シンポジウムに付随して、ちょうど制度改革を迎える科研費制度に関するワークショップを、まさにその制度の構築に携わっていらしたゲストと共に議論をする機会を設けることが決定している。ぜひ参加していただき、あるいは周知していただき、融合を問う営みに参画していただきたいと心から願っている。

シンポジウム『融合を問う：学問の消滅と生成の系譜学から』

日時：2016年7月10日（日）13：00～17：00

会場：日本学術会議講堂

プログラム

- | | |
|---------------------------------|--------------|
| 1 「学問の生成と消滅の系譜：融合する学問としての農業経済学」 | 藤原辰史（京都大学） |
| 2 「『社会数学』の生成、消滅と部分的再生」 | 隠岐さや香（名古屋大学） |
| 3 「技術と学問のあいだ：実学化と純化に揺れた革命期の学問」 | 中村征樹（大阪大学） |
| 4 「融合の先にあるものとは何か：環境学の現在と百年の計」 | 福永真弓（東京大学） |

休憩 15：10～15：20

座談会

「生成と消滅のダイナミズムからみる学問の未来」

ファシリテーター：平田聡（京都大学）

藤原辰史・隠岐さや香・中村征樹・福永真弓・生田ちさと（JAXA）

【シンポジウム付随ワークショップ】

「科研費の新体制は学問の場をどう変えるか」

ゲスト：前澤綾子氏（内閣府知的財産戦略推進事務局参事官補佐）

●プロフィール

福永真弓（ふくなが まゆみ）

日本学術会議東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授

専門：環境社会学・環境倫理